

令和5年12月11日
大阪公立大学医学部附属病院

腹部大動脈瘤治療に対する前処置時に
塞栓（血管を塞ぐ処置）予定の血管を誤認した事例について

当院において、腹部大動脈瘤治療に対する前処置時に、塞栓予定の血管を誤認し、誤った血管を塞栓した事例が発生しましたことを報告申し上げます。この事例におきまして、速やかに医療安全に関する会議を開催し、検討を行いました。その結果、塞栓予定の血管を決定する際にX線（レントゲン）検査の撮影範囲を広げて、視野を確保した上で確認することで、再発防止に取り組んでおります。

患者さん、ご家族の方をはじめ関係者の皆様には、今回このような事態を招いたことを深くお詫び申し上げますとともに、今後の再発防止に努めて参ります。